登山月報

2015 年新春懇談会を開催 …… 1
第1回海外登山懇談会　報告 …… 2
登攀技術研修会、主任検定養成講習会、上級指導員養成講習会報告 … 3
積雪期レスキュー講習会（東部地区）…… 4
トラッドクライミングミーティング 2014（その 2）… 5
第 75 回 Mountain World …… 7
北から南から ブロック便り …… 8
平成 26 年度後期 海外登山奨励金交付登山隊 … 9
第4回日本山岳グランプリ贈賞 …… 9
平成 26 年度顧問・参与会報告 …… 10
ＪＭＡ、寄贈図書、編集後記 …… 11
全国「山の日」フォーラム …… 13

2015年新春懇談会を開催

恒例の新春懇談会が１月17日（土）にアルカディア市ヶ谷で開催された。当日は駐日ネパール大使・マダン・クマール・バッタライ閣下夫妻をはじめ文部科学省スポーツ青少年局競技スポーツ課・坪田知広課長、国立登山研修所・渡邉雄二所長、日本勤労者山岳連盟・西本武志会長、浦添嘉徳理事長、日本山岳会・森武昭会長、日本山岳ガイド協会・磯野剛太理事長、日本ヒマラヤ協会・山森欣一会長、日本山岳文化学会・小疇尚会長、日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト・田上和義理事長など大勢のご来賓、招待者を迎えて、140名の参会者となった。

はじめに八木原副会長が開会を宣言し、神﨑会長が主催者を代表して挨拶を行った。

続いてご来賓を代表してバッタライ大使、渡邉所長、坪田課長からご挨拶を頂戴した。

これまで行ってきた各種表彰は、式次の後にして、先ず乾杯を行い祝宴に入った。

乾杯は、坂口三郎、山本久子、国澤鎮雄、田中文男、粟飯原一成、本木總子各顧問によって行われ、代表して坂口顧問のご発声で祝杯を上げた。

北は北海道から南は九州・大分まで世代を超えた方々が一堂に参集され、あちらこちらで懐かしい想い出話に花が咲いていた。

暫くご歓談いただいた後、中締めの前に表彰が行われた。先ず、はじめに第４回日本山岳グランプリの贈賞。今回の受賞者は、長年にわたり、ネパール・ヒマラヤで高所登山を実践されながら、とりわけ西北ネパール辺境地域の地理的空白部の解明や韓国登山界との交流などに大きく貢献された大西保氏が選ばれた。唯、大西氏は、この日の贈賞式を迎えることなく、昨年９月20日に73歳の若さで急逝されたため、式ではご子息の大西務氏が代理で楯と副賞目録を受賞された。

次いで日山協や各岳連の活動に永年ご尽力、貢献された方々に対して功労表彰が授与された。受賞者は、佐々木義宗（秋田）、吉田弘司（宮城）、齋藤長作（群馬）、大曽根弘（神奈川）、関孝治（福井）、中西研一（兵庫）の６氏と長年ＪＯＣジュニアオリンピックカップ大会等でお世話になっている富山県南砺市。

続いて指導委員会推薦の亀田行宣（石川）、西原斗司男（兵庫）、雨宮節（沖縄）の３氏。次にＩＦＳＣクライミング・ワールドカップ2014でワールドランキング女子１位（ボルダリング）になった野口啓代選手と世界選手権パラクライミング視覚障害B1部門で優勝した小林幸一郎選手。

中締めは日本山岳会の森武昭会長にして頂き、最後に佐藤副会長より閉会宣言があり、お開きとなった。

（記　尾形好雄）

神﨑会長の挨拶

顧問による乾杯

第１回海外登山懇談会　報告

2014年11月６日（木）の19時～21時にかけて、代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、第１回海外登山懇談会が開催されました。この懇談会はもともと海外登山女性懇談会として27年間続けてきたものを、今年度から改名したものです。女性にこだわる必要性に対しても疑問がありましたし、また女性という観点ではなく、登山の楽しみ方の多様性（先鋭的な登攀ではなく、探検や新しい視点の登山など）を紹介する懇談会として再出発したいとの思いで改名したものです。

今回は「登山を通して見えてきたもの」というテーマで、山岳ライターの柏澄子さんと医師の橋本しをりさんを講師にお招きしました。柏さんは最近訪れたノルウェーでのスキーの古代壁画を巡る旅の話や、仕事で訪れたキナバルやニュージーランドの話をしていただきました。これまでの登山やガイドの仕事を通して多くの人から影響を受けてきたこと、そして多くの人生と出会って山に登る意味についてもイメージが広がったことなどを話してくれました。橋本さんはこれまでにご自身が隊長として組織したヒマラヤ女子登山隊のこと、中国と合同で行ったチョー・オユー、チョモランマ女子登山隊のことについて振り返ってくれました。昔は隊としての成功を重んじる傾向がある中、隊員全員が等しく登山を楽しめるように、隊長として苦労された話もしていただきました。またもともと土の上に寝るのが好きで登山を始めたとのことで、いまも常に自分の面白いことに挑戦していることは変わらないとおっしゃっていました。

そしてお二人の講演のあとは鈴木国際常任委員の司会のもと、座談会が行われました。橋本さんが主宰し柏さんも協力している、登山を通して女性がん患者の生活の質の向上を目指すＮＰＯ法人 フロント・ランナーズ・クライミング・クラブ（ＦＲＣＣ）の活動に

ついても話題が及びました。これも橋本さんがアメリカの乳がん財団主催の登山に参加したことがきっかけで、ご自身でできることを考え取り組んでいる活動であるとのことでした。

すでにベテランであるお二人は、山の登り方や楽しみ方にご自身なりの答えを持っているのかと思っていましたが、今回お二人のお話を聞いて、まだまだお二人とも現役であり、常に自分の興味に従って変化しながら山を楽しんでいるように感じました。橋本さんも最近はクライミングにも熱心な様子で、常に発展途上であるその姿は、とても魅力的に思えました。

今回は参加者数17人と少ない結果となりました。それはテーマ自体が抽象的で分かりにくくなってしまったことが大きいと思います。委員会内での役割分担が不明確なまま準備を進めたため、事前の講師との打ち合わせなどが円滑にできなかったことが原因と思います。また同様の理由で広報活動も遅れてしまったことなど、課題が多く見つかった懇談会となりました。せっかくよい講師から貴重なお話をいただけるのですから、いかに参加者の興味ある企画にし、多くの登山者に益することのできる事業を作れるかを、今後も真摯に考えていかなければいけないと改めて感じました。

（記　国際委員長　澤田　実）

岡山県開催　平成26年度
登攀技術研修会、主任検定養成講習会、上級指導員養成講習会報告

平成26年11月26日（土）～27日（日）に岡山県玉野スポーツセンタークライミングウォールにおいて登攀技術研修会および主任検定員養成講習会、上級養成講習会が開催された。今回は研修22名、Ａ級主任検定４名、上級指導員養成講習７名、講師７名、岡山県スタッフ３名の計４３名での開催となった。参加者は山陽地方以外にも、関西、四国、関東からも広く参加いただき、例年以上の参加者となった。また、スタッフの岡山県山岳連盟の方々には、おいしい瀬戸内の魚を市場で調達していただくなど、手作りの懇親会を開いていただき、その他にも多大なご協力をいただきました。改めて感謝申し上げます。

以下に参加者の代表の感想を掲載いたします。

（記　指導委員会　野村善弥）

平成26年度登攀技術に関する「上級指導員養成講習会」に参加して

鹿児島県山岳連盟　藤山明彦

今回、約30年ぶりに日本山岳協会の講習会に鹿児島の屋久島から参加しました。思い起せば30年前の３月に富士山での氷雪技術研修会に参加したのが昨日のようです。その時は、研修組として七合目付近の雪渓で滑落停止や確保の研修を受けていたのですが、上部から、登頂組のアンザイレンした２人が上になり、下になりながら、物凄いスピードで滑り落ちて来ました。

研修組の上部で確保の研修を受けていた登頂組の１パーテイーが、滑落者を確保出来ず、そして、セルフビレーも抜けてしまった事が原因のようでした。アンザイレンしている以上、確保技術はお互いの命を守る唯一の技術だとつくづくと目の当たりにしました。幸いにも、２人ともたいした事はなかったのですが、足を怪我した方をスノーボートでスバルラインまで研修組が協力して搬送しました。この事は、雪の少ない南国育ちの者にとっては大変貴重な経験となりました。

今回の講習会は、確保技術が如何に大事であるかに重点をおいた講習会だったと思います。初日は、一通りの講習を受け、２日目に検定の日程で実施されました。

まず、墜落者を止める講習です。大型トラックの55㎏のタイヤを落として止める訳ですが、なかなか上手くいきません。急に止めると墜落者がダメージを受け、また、確保者自身も体を持っていかれます。このような場合は制動確保で少し流す事によってダメージを少なくする事ができます。次に確保状態からの自己脱出です。それから自己脱出からの墜落者のレスキューに移り、ムンターヒッチからのロワーダウンで墜落者を降ろして行きます。これで一連の流れが終わります。

次は登攀からの懸垂下降です。まず、実際に登攀して終了点で懸垂の支点構築とザイルのセットを行い、器具を使用して懸垂下降を行います。

最後に宙づりの状態からの自己脱出です。２ケ所のフリクションヒッチを利用して登る方法です。これも何回も反復練習が必要だと痛感しました。これらの実技講習の間に机上講習も実施されました。指導者とはどうあるべきか・心構えなど、結論としては「指導者とは安全登山の啓発と普及を行う者である」と。短い２日間でしたが、凄く充実した日を送り、屋久島から海を渡り、車で岡山まで来たかいがありました。今後とも、機会ある毎に研修会・講習会に参加し、安全登山の啓発と普及に努めてまいります。

最後に日本山岳協会の講師の方々・運営して頂いた岡山山岳連盟のスタッフの方々、どうも有難う御座いました。

積雪期レスキュー講習会（東部地区）を谷川岳で開催

平成26年度積雪期レスキュー講習会が１月23日（金）～25日（日）に谷川岳の土合山の家周辺で行われた。この講習会はtotoの助成を受け開催されたものでクラス１、クラス２、クラス３の３コースの講習を行い、41名が受講した。若い人にバックカントリーが浸透しつつあり、今年も若い受講者や女性が多く、活気のある講習会となった。

全員で雪崩現象（雪崩について）を学んだ後、クラス別に行動した。昨年からクラス１は日本雪崩ネットワークのセーフティーキャンプのカリキュラムに従い、雪崩についての学習と対応を中心にＪＡＮの出川講師、松本講師と服巻常任委員が講師を務め、14名が受講した。このクラスは遭難対策の中でも事故予防を主眼としたもので、雪崩地形（講義＆演習：雪崩地形特に発生区の認識）、降雪と積雪（講義：降雪の種類と積雪内の温度勾配による球形化と再結晶化について）、安全行動（講義＆演習：雪山での行動原則、雪崩地形内での行動様式）、雪崩埋没者の捜索救助（講義＆屋外実習）、雪質観察（屋外実習）、雪崩地形の認識と行動（屋外実習）、危険度の理解（屋内演習：屋外での雪質観察結果とフィールドでの地形や雪崩発生状況から現状の危険性を評価）、雪崩埋没者の捜索救助（屋外演習：４人埋没（内１名はビーコンなし）をグループでの捜索演習）を映像や現地でみっちりと学んだ。

クラス２は18名で２班に分かれ、石田常任委員および一本松常任委員が主任講師を務めた。このクラスは積雪の断面観察、ジャンプテスト、弱層テスト（シャベルテスト、ハンドテスト）、埋没体験、埋没者の掘り出し、低体温症の処置、対応、ビーコンによる捜索、プローブによる捜索、要救者の梱包、搬送（平地のみ）、シェルター（スノーマウント）構築、一連の流れのシュミレーションを行った。

クラス２のプローブ捜索訓練

講評するクラス２の石田講師

クラス３は町田常任委員が主任講師を務め、オリエンテーションの後、屋内ロープワーク（ロワーダウンと引き上げシステム、流動分散）、低体温症についてのメカニズムと予防、対策、屋内のアバランチトレーニング（ビーコンの種類と特性、プロービング）、屋外ロープワーク（支点について）、雪崩予防復習（スタビリティテスト）、屋外のアバランチトレーニング（ビーコン捜索、プロービング、掘り出し）、総合シミュレーション、シェルターについて学んだ。

雪はこの時期の谷川岳としては十分にあり、バックカントリーの事故が相次いだこともあり、講習にも真剣に取り組んでいた。今回の講習も初心者が多く、装備を持たない人がいままでで一番多かった。主催者側でマジックマウンテンのご好意によりビーコン（オルトボックス）をお借りしていたので間に合ったがビーコンの普及を図る意味でも必携にしたらという講師の意見もあり、次年度は必携で募集をすることになった。

42名の募集に対し、60名を超える応募があり、募集に関して一部応募者に迷惑をかけた。結果的にキャンセルが相次ぎ、キャンセル待ち全員が受講できたが、募集方法、日程など改善の必要性を痛感した。

（遭難対策委員長　西内　博）

クラス３のロープを使った引き上げ訓練

トラッドクライミングミーティング2014 （その2）

東京都山岳連盟・わらじの仲間　**須田忠明**

○食事について

朝食はミーティングハウス１階の集会場で、道路を挟んだ向かい側のレストランから運んで提供された。セルフサービス方式でパン、チーズ、ハム、サラミ、シリアル、牛乳、フルーツジュース、コーヒー、紅茶等が毎日提供された。時々、ヨーグルトやリンゴが出されることもあった。初日の日曜日の朝は提供されなかった。また、ミーティング終了後の日曜日の朝は、下流側徒歩10分のホテルへ朝食を食べに行った。

昼食は、朝食時のパンでサンドイッチを作って持参する人が多く、自分は朝食にも提供されている小さな菓子パンのようなものやリンゴ程度で、あまり食べなかった。

夕食は、宿舎前や車で移動した日毎に異なるレストランで提供された。山岳地域なので肉、ハム、チーズ主体となるが、食事は非常においしかった。胃潰瘍ということもあり、アルコールはほとんど飲まなかったが、夕食時のワインと水は飲み放題であった。これらは全て参加費用に含まれている。

５．費用

参加費は１人100ユーロ（約14,000円）であり、これにミーティング期間の宿泊、食事、空港からの送迎を含む現地での交通費が含まれる。自己負担はミラノまでの往復渡航費と、上記以外にかかる食費、ビール代などである。ミーティング翌日も登ったので、その日はミーティングハウスが使用できずにトリノで泊まったので、その宿泊費と翌日トリノからミラノ国際空港までのバス代がかかった。今回は全額自己負担であったが、現地ではほとんどお金を使っていない。

６．登攀ルート

特に表記がないものはナチュラルプロテクションで、ルートによってはピトンやボルトがある。

９月15日

メンバーと行先は、ミーティングハウスの前に掲示される。私達はホスト２人を含む総勢９名で２グループに分かれて比較的やさしいマルチピッチのあるTorr de Aimoninというエリアに行った。小さい町の駐車場に車を置き、家の間からトレイルに入り、分岐を右へ二回曲がり、踏み跡に沿って急な坂を上ると岩場に至る。

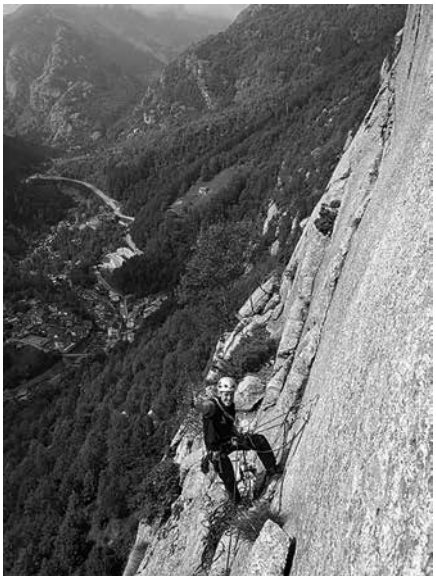
VIA DEL DIEDRO 6a

私はデンマークのアンダースと組み、先行して登る。イギリスのリンゼイとホストのマウロが組んで続いた。

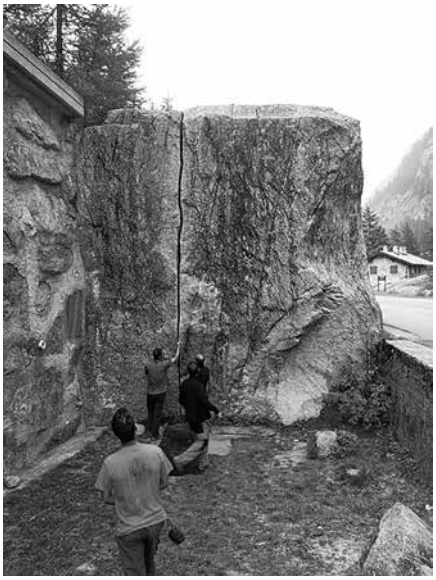
１Ｐ（4a）フォロー、Ⅲ級程度の登りでテラスへ。

２Ｐ（5b）フォロー、グレード感がわからないので、また先行してもらう。中間部でどちら側のクラックに入るか苦労しているようだった。右は広いが、左をそのまま直上すれば、5.8程度とそれほど難しくはない。

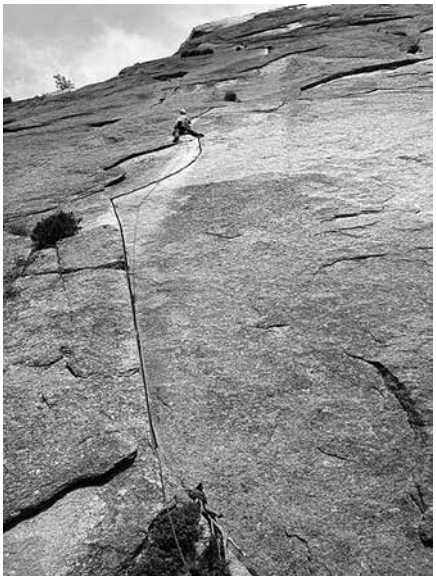
３Ｐ（5c）リード、２ピッチ目と似たようなグレードだから、初めてリードさせてもらう。特に問題なく



PESCE D’APRIE 5cの
途中からOrco谷



有名なFESSRA KOSTERLITZ(V1)の
ボルダー



INCASTROMANIA 6aハンドの
1Pのルート

登った。下からマウロがgood jobと言ってくれる。60m１回で下まで懸垂下降で戻る。

PESCE D'APRIE 5c

１Ｐ（4b）フォロー、岩場の左端を少し登ったところが取付になる。浅い溝の右のリッジを右上し、カンテを乗越したところでアンダースはピッチを切った。易しいところが続くが、ロープの流れが悪くなるので、どちらにしろ短く切るようだ。

２Ｐ（4a）リード、トラバース後少し登って終了点となる。支点も取れるので問題ない。

３Ｐ（5c）フォロー、ビレイ点からフレークにキャメC4の0.3を決め、レイバックで越えていく一歩が核心。直上してから右へトラバースする。

４Ｐ（5b）リード、ルートの核心となる顕著なダイヒードラルのピッチ。出だしの細いクラックには残置ハーケンもある。クラックにカムも決まり、ランナウトはしない。途中で細い立木も出てくるが易しいので伸ばし、中間のテラスに至る。支点もありここでピッチを切ることもできるが、そのまま伸ばせという声にハングを右に越える。ここも支点は取れるし難しくはない。ハングを越えたところにビレイ点はあるが、別ルートを登るパーティーから、あと５m伸ばした方が良いと言われ、右上してピッチを切る。

５Ｐ（4a）フォロー、やさしいクラックを10mほど登り、傾斜のなくなった草付を登り木でビレイ。そこから左へ歩き、懸垂下降の支点となる。懸垂３ピッチで取付に戻る。

まだ15時半で早いが移動となり、これで終わりかと思った。車で移動し通り道のSergeant入口にある有名なFESSRA KOSTERLITZ（V1）というボルダーに立ち寄る。高さ7mで、きれいなクラックが走る。出だしがシンハンドの薄かぶりで、その先はハンドがよく決まり、易しそうだ。遊び半分の気持ちで数人がトライし、自分もやってみるが、手は決まるが運動靴のままでは安定したところまでは登れなかった。もともと屋外でのボルダリングの経験がほとんどなく、マットもない条件でもあり、あえて靴をはきかえて本気でトライしようとはしなかった。また、3週間ほど前にぎっくり腰になり回復途上であり、無理をしない意識も働いた。マウロやフランスのオマレットはクライミングシューズでトップアウトした。また、若いホストのガブリエルとティトは、運動靴のまま登っていた。ほかの人もトライしたが、出だしのジャミングが決められない人が何人もいた。皆自分より上手いのかと心配していたが、何とか自分でもやっていけると感じた。

夕食は中心部に近いレストランでマウンテンゴートの肉とデザートにプリンなど。今日はマウロの誕生日で、夕食後にお祝いとなった。

９月16日

ホストはウンベルトで、４人のゲストとともにSergeantエリアへ向かう。ウンベルトは易しいルートを登りたいというノアンと組み、残ったデンマークのヤスパーとアンダース、自分の３人で登り始める。

INCASTROMANIA 6a リードでフラッシュ

ハンドクラックがよく決まる、25mほどの好ルート。ヤスパーがリード、アンダースがトップロープの後、リードした。

ATTESIMO DEL FUOCO 7a（?）　1Pフォロー

アンダースとヤスパーの３人で上記のスラブルートに行こうということになり、アンダースが１ピッチ目を本来のスラブではなく左の凹角から入り、ルーフ下を右にトラバースするラインをリードする。トラバースでは濡れていると叫び、抜け口の小ハングで苦戦してやたらと時間がかかる。フォローしてみると5.8程度しかなく、この先7aのピッチも出てくるのでとても無理だということで懸垂下降して下りる。ヤスパーは不満そうだが、技量差が大きすぎるので仕方あるまい。

LOCATELLI 6a

今日はショートルートにするというヤスパーと別れ、アンダースと二人でやさしそうなルートに向かう。トポを見ながらルートを確認するのも手間ではあるが、楽しみなのかもしれない。

１Ｐ（5c）リードでOS

写真でも見た、有名なルート。出だしが少し湿っていたが、問題なく登れる。

２Ｐ（4c）フォロー

もろいとトポには書いてあったが、そんな事はない。アンダースは抜け口を左に回り込んだが、カムも決まるし自分は直上で越える。３ピッチ目は傾斜もなく簡単で、その先でテラスとなる。それ以降がきれいな凹角となっていて、登攀意欲がかき立てられる。しかし、あいにくシングルロープで登ってきており、下降には２本ロープが必要なのでここから懸垂下降２ピッチで地面に下りた。登る前にアンダースには上の方が楽しそうだとは伝えたが、上まで抜けると時間もかかるのも事実で、他の３人と合流することにした。

（つづく）

第75回 Mountain World

ナンガ・パルバット　冬の陣

池田常道

ナンガ・パルバット（8126 m）の冬季登山史は長いリストになる。挑まれた回数は8000 m峰中で最も多いにもかかわらず、なお未踏である。今季は、以下の5隊が冬季初登頂をめざして入山した。

［西面ディアミール側］

トマシュ・マツキェヴィッチ（ポーランド）単独。

ダニエーレ・ナルディ（イタリア）とエリザベート・ルヴォル（フランス）。

レザ・バハドラニ、イライ・マーニ、マハムード・ハシェミ（イラン）。

アレハンドロ・チコン（スペイン）とアリ・サドパラ、ムハマッド・ハーン（パキスタン）。

［南面ルパル側］

ニコライ・タトミャニン、セルゲイ・コンドラシキン、ワレリー・シャマロ、ヴィクトル・コヴァル（ロシア）。

＊

2010年以来今回が5回目の挑戦（そのうち3回7000 m以上に迫っている）となるマツキェヴィッチは、昨年11月からルパル側に入って高所順応し、12月下旬ディアミールBCに移ってナルディとルヴォルに合流した。そこでルヴォルと組んで登頂を狙うことにし、1月9日に出発した。ルートは北峰Ⅰ（7816 m）の北西壁をたどるもので、メスナーが2000年にハンスペーター・アイゼンドレらと試みて7500 mまで登ったもの。他のルートは氷や岩がむき出しになっていたので、雪の部分が多いラインを選んだのである。

ディアマ氷河を登って、5日目の13日に取付きの6600 mでビバーク。15日には7200 mに達して最後のビバークをした。翌日の攻撃は、頂上までの距離を過小評価したために届かず、7500 mから引き返した。翌17日は午前3時に出発し、昼ごろには7800 mのコルに着いた。あとはヘルマン・ブールのルートをたどればいいだけだったが、強風が勢いを増して寒気がきびしくなり、あと300 mを残して引き返した。彼らの達した7800 mは1997年にポーランドのズビグニェフ・トゥシュミエルが記録した7900 mに次ぐ冬季二番目の到達高度だった。

二人はBCに帰ってもう一度挑戦するつもりだったが、6500 mあたりまで下りてきたとき、体重の軽いルヴォルが渡りきったスノーブリッジがマツキェヴィッチの足元で崩壊、クレバスに50 mほども落ちてしまった。幸い底まで落ちずに止まったことが分かったので、ルヴォルは200 m下に置いたキャンプまでロープを取りに走り、マツキェヴィッチの脱出を助けることができた。肋骨が折れ脚も痛めていたが、なんとか自力で歩いてBCに帰った。

ルヴォルはこれで帰国を決めたため、パートナーを失ったかたちのナルディは単独でママリーリブの登攀に向かった。2月5日5600 mにC3を建てたが、翌日9時15分にキャンプを出て15分ほど登ったときに雪崩がテントを押し流した。この日はルートの状態がよかったので、そのまま6100 mまで登ったが、テントや物資を失ったため、補充するためいったんBCに帰る羽目になった。

イランのトリオは、K2北東稜が不許可になったチコンと一緒に1月末BCに入り、西壁62年ルートに向かった。順応不足と深い雪に行き悩みながら、31日にC1（5050 m）を建設。雪がなくブルーアイスと化した下部岩壁は難しく、2日間試みてようやくC2予定地の150 m下に1300 mのロープと物資をデポした。

ロシア隊4人は昨年のクリスマス前後にＢＣに入り、南西稜に3つのキャンプを設けた。1月14日から20日で7150 mまでルートを伸ばしてデポを設け、のちにここをC4とした。28日にBCを出て攻撃に移り、31日にC4に達したが、天候が回復しないため先へ進むのは中止、BCに帰って45日間の挑戦を終えた。

ナンガ・パルバットのディアミール側。左端のラインが、マツキェヴィッチとルヴォルの試みた北峰Ⅰ北西壁。右手前のリッジはマゼノ山稜。

北から南から ブロック便り

北海道ブロック

昨年の北海道山岳連盟の話題２題

◎個人会員制度の発足

北海道における過去５年間の山岳遭難事故状況は、北海道警察本部によると計283件で毎年49～64件発生している。遭難者総数は318名に達し毎年53～73名が遭難している。うち死亡者は35名で１割が死亡している。

遭難の内容を見ると、毎年１位は「道迷い」で特に多かった平成24年（60％）を除いて毎年遭難者の35％前後を占めている。その他遭難者の不注意・技量不足と思われる転倒・滑落・転落は毎年25％前後を占めている。

冬山の代表的遭難と見られる雪崩事故の人数はこの５年間で９名であった。

北海道山岳連盟（以下道岳連）に所属する会員は約2,000名であり、全国的な状況から考えられる北海道の登山者人口は20,000名と推定される。道岳連会員の遭難事故は一昨年６月の２件、負傷者５名でいずれも落石事故であった。

平成26年の遭難者59名の出身地は、外国人３名、北海道以外15名で、他は北海道内の登山者である。

このことから、北海道の山岳遭難事故は、本州からの登山者も含めてほとんどが山岳会に非加入の登山者と考えられる。

こうしたことを踏まえて道岳連は、遭難事故を減らし安全登山を推進する方策の一つとして、昨年春「個人会員制度」を発足させた。

未組織の登山者に安全登山の知識技術を啓発、取得してもらう機会を少しでも広げたいと考えたからである。

純然たる趣味のスポーツである登山では、知識技術の習得を義務付け強制することはできない。未組織登山者の多くは、既成の山岳会に縛られたくない、自由に山を登りたいと考えている。無論、道岳連では多数の事業を未組織登山者にも開放しているが、未組織登山者にとって、やはり連盟や山岳会の事業は敷居が高いようである。

そこで個人会員制度を設ければ、講習会や研修会に気楽に参加してもらえるのではないかと考えた。

構想は数年前に遡るが、実際に検討委員会が設けられて具体的な検討に入ったのは一昨年の11月であった。検討委員は広い全道から集めるわけにもいかず、勢い札幌中心のメンバーになった。

未組織登山者も多数参加した夏山講習会

各都府県の先例を参考に検討が重ねられたが、問題になったのは既成の山岳会会員との関係であった。具体的には、「個人会員制度が既成の山岳会の不利益になりはしないか」ということである。主な意見は、

①既成の山岳会の入会者が減るのではないか。

②会費の額によっては、山岳会を辞めて個人会員になる者が出てくるのではないか。

というものであり、更に、

③既成の山岳会員と資格便宜において差をつけるべきではないか。

との意見まで出てきた。

特に③については、道岳連の基本は山岳会であり、本連盟規約第５条４項に「未組織登山者の組織化に取り組む」とあるように、未組織登山者に山岳会入会を促すのが筋ではないか、という根拠から出てきた意見だった。

最終的に原案がまとまったのは２月中旬で、３月の理事会を経て昨年５月の総会で実施が決定された。

結論としては、③の意見を配慮して指導員などの資格は取得できない、との制限は設けられたものの、全体として緩やかな個人会員制度となった。

◎トレイルランニング

道岳連主管のトレイルランニングは、羊蹄山東方のルスツスキー場の貫気別岳（994ｍ）と尻別岳（1107ｍ）を使って、昨年まで５回実施した。開催は毎年９月下旬の連休を使い、回を重ねるごとに参加者が増えてきている。昨年はキッズ（３ｋｍ）・６ｋｍ・16km・30km・50km・70kmの参加者は525名に達するまでになった。

ところが昨年の参加者から70kmを80kmにして欲

しいという強い要望が出たのである。70kmではモンブランと富士山の出場資格を得るポイント数を稼げないというのである。近年のトレランブームは距離の長い方が人気の様で、因みに70kmの参加者が一番多かったのである。

今年の70kmの場合、午前４時30分にスタートし午後６時に閉鎖するので１日で終了するが、80kmとなるとスタートを早め終了を遅くするか、２日間にするかになる。道岳連としては役員をほぼボランティアとして会員に依頼しているが、遠くの会員の帰宅時間や秋の紅葉シーズンの２日間を動員することの難しさで躊躇していた。

平成26年度後期 海外登山奨励金交付登山隊

平成26年度後期の募集に対して１隊から申請があり、その内容を審議した結果、以下の登山隊に奨励金の交付が決定した。

「TASA BRAKKA JAPAN EXPEDITION 2015」

【メンバー】 今井健司、青木達哉、中島健郎

【実施期間】 2015年５月～６月

【内　　容】 パキスタンのカラコルム山脈、チョゴリンザ氷河にあるTASA BRAKKA（6700m）をアルパインスタイルで登る。TASA BRAKKAの西峰は過去に日本隊によって初登されているが、主峰は未踏。その主峰を南面から初登を狙う。予定している南面のリッジは、ダイレクトに主峰に突き上げる魅力的なライン。

【交 付 額】 40万円

【選考理由】 カラコルムの未踏の6000m峰に対して、傾斜の緩い北面からではなく技術的に難しい南面から、頂上に突き上げる美しいラインをアルパインスタイルで登って初登を狙うという意欲的な計画に対して。

トレラン；午前４時半、70kmのスタート

結局、来年度は２日間の動員は不可能ではあるが、競技時間を長くしても１日で収める方向で実施することにした。

第４回日本山岳グランプリ贈賞

本会の創立50周年記念で制定された日本山岳グランプリの第４回受賞者は、日本ヒマラヤ協会から推薦された大西保氏（大阪）に決定した。

大西氏は長年にわたりネパール・ヒマラヤでの高所登山を実践され、とりわけ西北ネパール辺境地域での調査活動は、地理的空白部の解明に大きく寄与された。

氏の踏査・登山は、谷に分け入り峠に至り、山稜を跋渉して未踏の頂に登り、既存の地図とＧＰＳを用いて山座同定や文化遺産の調査など辺境地域の地理や文化的情報を収集して発信するものでした。それらの解明は地図の修正や登山解禁峰の制定などに貢献された。

一方、氏は韓国のヒマラヤニストとの交流を深め、支援を続けることで絶大なる信頼を得、大阪府山岳連盟と大韓山岳連盟が共催する「日・韓岳人シンポジウム」の開催に尽力されるなど韓国登山界との国際交流に大きく貢献された。

平成26年度顧問・参与会報告

2015年新春懇談会に合わせて1月17日10時30分より東京・アルカディア市ヶ谷で顧問・参与会が開催された。

顧問は坂口・山本・国澤・田中・粟飯原・本木各顧問6名、日山協からは神﨑会長、八木原・佐藤副会長、内藤監事ら7名の役員が出席し、参与は全国から17名が参加された。

神﨑会長挨拶の後、尾形専務理事より、平成26年度の組織・役員体制、財政状況、事業概況、山岳共済会事業などの現況を報告した。

次いで、出席者に自己紹介を含めた現況報告をして頂いた。日常の活動状況や健康に関することなどが報告された。

参与からのご意見では、競技と登山のアンバランスな予算。クライミング事業に偏り過ぎではないか。未組織登山者の遭難事故多発に対し、革新的な安全対策事業が急務ではないか。遭難防止キャンペーンを全国的に展開してはどうか。環境に合った道標設置や山のグレーディングなど、今、山で起こっている事に日山協の顔が見えてこない、公益法人として切り込む方向を変えるべきではないか。気象遭難に対して日山協には気象の専門家がいない、気象委員会を設置すべきではないか。登山届をスマホなどで登録できるシステムを日山協でできないか。「ヒトココ」のレンタルサービスを足がかりに日山協をアピールできないか。参与人数の減少が気になる、積極的に呼びかけてはどうか。『登山月報』の1面がクライミング記事ばかりだ、編集内容を考えて貰いたい。山岳雑誌の競技大会の記事に日山協主催の記載がない、きちんと記載させるべきではないか。女性役員の登用を考えるべきではないか。などについてご意見を頂いた。

（記　尾形好雄）

新刊図書紹介

『簡単にできる！山のファーストエイド』

恵　秀彦　著

ヤマケイ登山教室で「山のファーストエイド」講座を担当する著者が、分かり易い応急手当の本を上梓した。

著者は、ファーストエイドの知識を得ることは大切だが、「知る」事と「出来る」事は、別物。この本がきっかけとなって少しでも山のファーストエイド講習会への参加者が増え、有事に山仲間が助け合う環境につながれば、と結ぶ。

内容は、○入山前の準備と緊急時の行動○登山中に気をつけること○山登りに多いトラブルと動植物の危険○知っておきたい山のファーストエイド○冬のアクティビティとトラブル対策○急を要する重大事故への対応の6章からなる。

ケガや病気の応急手当のためにそれぞれフローチャートが付いており、また、写真やイラストを豊富に使って説明しているので分かり易い。

コンパクトな本なのでリーダーはザックに1冊忍ばせておいては如何か。

著者は長年にわたり本会の遭難対策委員会及び医科学委員会の常任委員を務められており、ＭＦＡインストラクター・トレーナー、ＤＡＮジャパンインストラクター・トレーナーなどのファーストエイド資格を持つ。

A5版、128頁、定価1,600円＋税、2014年12月30日発行、山と渓谷社

ネパールへ行かれるなら
風の旅行社名古屋にお任せ下さい
ご友人同士、ご夫婦等、あなただけのオリジナルプランをご提案いたします。勿論、現地では日本語ガイドががっちりサポート！
是非、お気軽にご相談下さい。
株式会社
風の旅行社名古屋
愛知県知事登録旅行業第3-1367号 日本旅行業協会正会員
総合旅行業務取扱管理者　古谷 朋之
〒460-0008　名古屋市中区栄3-7-12　サカエ東栄ビル6F
TEL 0120-987-321　FAX 052-228-6232　e-mail nagoya@kaze-travel.co.jp

5月・6月のベスト・シーズンに行く、英国の登山＆ウォーキングの旅の決定版
英国3つの最高峰登頂と
湖水地方、エディンバラゆったり滞在 12日間
発着地 東京・大阪　出発日 5/13(水)・6/10(水)
旅行代金 ¥664,000～¥698,000
※燃油サーチャージ(2015年1月15日現在：目安36,000円～49,000円)が別途必要です。
旅行企画・実施　観光庁長官登録旅行業第490号／日本旅行業協会正会員／ボンド保証会員
アルパインツアーサービス株式会社
〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911
大阪☎06-6444-3033　名古屋☎052-581-3211　福岡☎092-715-1557
e-mail:info@alpine-tour.com　http://www.alpine-tour.com

平成26年度１月（27年１月）常務理事会報告

日　時　平成27年1月8日㈭
18時00分～20時15分
場　所　岸記念体育会館103会議室
出席者　神﨑会長、八木原・國松・佐藤副会長、尾形専務理事、小野寺、西内、仙石、京オ、瀧本、青木各常務理事、中畠監事、［委任］森下、水島常務理事（理事13名11名出席）

1．議　事

⑴平成26年度12月常務理事会議事録の承認について
議事⑶の新春懇談会特別表彰の表彰候補者に吉田弘司（宮城）を加筆。役員等の派遣などの月日で年号が跨る場合（12月～1月）、最初の1月のところに年号を記入し、（以後、年号省略）を加筆することで承認。

⑵ BMC International Summer Climbing Meet 2015 の派遣承認について
国際委員会から推薦された神林裕（東海山岳会所属）、増本亮（同人クライミングファイト所属）の派遣を承認。尚、議案書には、予算も注記するよう中畠監事から指摘があった。

⑶Mountaineering Comission in Japan（案）について
西内常務理事より資料に基づきUIAA登山委員会の日本開催（4/10～11）が提案され、承認された。

⑷報　告
ア　会計月次報告
小野寺常務理事より資料に基づき12月末までの貸借対照表、正味財産増減計算書内訳表について報告がなされた。
イ　2015年新春懇談会について
尾形専務理事より出席状況、式次第等について報告がなされた。
ウ　第70回国体（和歌山）競技会会場におけるイベント事業実施意向調査の回答及び準備状況について
第70回和歌山国体の競技会場でのイベント事業実施については、「希望しない」で回答する旨、報告があった。（尚、当該年開催の国体の準備状況は、毎月の常務理事会で逐一報告することの提案があった。）
エ　国体ブロック大会出場についてのお願いについて
オ　国体正式競技の継続に向けてのお願いについて
エ）、オ）に関して京オ常務理事より説明があり、会長名の願い書を発送することが報告された。
カ　全国「山の日」フォーラムの開催について
尾形専務理事より資料に基づき全国「山の日」フォーラム（3/28～29）の開催概要について報告があった。
キ　「道迷い」シンポジウムの開催について
西内常務理事より「道迷い」シンポジウム（3/14）の開催要項について報告があった。
ク　告発状に対する経過と今後の対応について
尾形専務理事より12/26に着信した匿名告発状についての経過と対応について報告がなされた。
コ　平成27年度予算（要求）書に関するヒヤリングについて
尾形専務理事より1/21～22の予算ヒヤリング後、1/30に会長決裁を受け、2/5の常務理事会に諮るスケジュールが報告された。

2．役員等の派遣について

⑴森を走ろうシンポジウム2015
1月11日㈰　於：立正大学大崎キャンパス5号館　八木原副会長
⑵全国「山の日」運営委員会
1月13日㈫　於：弘済会館
尾形専務理事
⑶東京都山岳連盟新春の集い
1月24日㈯　於：東京グランドホテル　神﨑会長
⑷関東ブロック競技研修会
1月24日㈯～25日㈰　於：埼玉
古林、佐藤常任委員
⑸第4回火山情報の提供に関する検討会　1月27日㈫　於：気象庁講堂
尾形専務理事
⑹北信越ブロック競技研修会
2月7日㈯～8日㈰　於：富山
森、佐藤常任委員
⑺近畿ブロック競技研修会
2月14日㈯～15日㈰　於：大阪
古林常任委員
⑻九州ブロック競技研修会
2月28日㈯～3月1日㈰　於：大分
松崎、佐原常任委員
⑼北海道ブロック競技研修会
3月7日㈯～8日㈰
寺内、佐藤常任委員
⑽東海ブロック競技研修会
3月14日㈯～15日㈰
於：三重　滝内、目次常任委員

3．後援、協賛等の依頼について

⑴第1回日本学生スポーツクライミング個人選手権大会の後援名義使用（大学スポーツクライミング協会主催）
尾形専務理事より資料に基づき説明があり、同大会の後援名義使用が承認された。

4．専門委員会動静

12月常務理事会以降（12月11日～1月7日）
【報　告】
⑴自然保護委員会
12月11日㈭　出席者13名
ア　11月常任委員会議事録の確認
イ　第38回自然保護委員総会報告
・委員長会議：19加盟団体の委員長が出席
・総会：28加盟団体、80名が参加
・UAAA創立20周年記念山岳フォーラム：国内6団体及び3ケ国・地域から発表
・UAAA創立20周年記念祝賀会：9ケ国・地域、13団体及び国内関係団体300名が参加

寄贈図書

寄贈本	全国「山の日」協議会	「はじめてのキャンピング」安藤スポーツ・食文化振興財団 編
	(株)モンベル	「軌跡」辰野勇 著
	論創社	「山 その日この人」斉藤一男 著
雑誌	(株)山と溪谷社	「秘湯・名湯めぐりの山旅ガイド 全国版」
	(株)山と溪谷社	「山と溪谷」№958 2015 february
会報	ネイチャーエンタープライズ	「岳人」№812 2015．2
	(公財)京都府体育協会	「京都府体協時報」№117
	特定非営利活動法人 日本トレーニング指導者協会	「JATI EXPRESS」Vol.44
	中華民國山岳協會	「中華山岳」244
	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」№441
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第571号
	神奈川県山岳連盟	「ときわ木」166号
	大阪府山岳連盟	「山岳おおさか」№203号
	横浜山岳会	「月刊 山 横浜山岳会」991号
	おいらく山岳会	「山行手帖」№661
	(一財)日本万歩クラブ	「帰れ自然へ アルク」2015 2・3
	(公社)日本山岳会自然保護委員会	「木の目 草の芽」第113号
	三峰山岳会	「岩つばめ」346号
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」№303
	(公財)日本体育協会	「Sports Japan」Vol.17 2015 01-02
	(公財)全日本ボウリング協会	「JBC news」第518号
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」№480 2015.2
	(公社)日本山岳会	「山」2015年1月号 №836
	(公財)国土緑化推進機構	「ぐりーん・もあ」第68号（初春号）
	(株)スクールパートナーズ	「高校生新聞・高校生スポーツ」1・2月号
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第419号
	東京野歩路会	「山嶺」№1019
	おいらく山岳会	「山行手帖」№662
	(公社)日本パワーリフティング協会	「ＪＰＡ時報」第63号
	Corean Alpine Club	「山」Vol.240 2015 JAN-FEB
	Korean Alpine Federation	「大山聯」Vol.193 2015January
	Korean Alpine Federation	「Koreann Alpine News」VOL.09 DECEMBER.2014
	中国登山協会	「山野 中国戸外」総編第197期
	(公社)日本山岳会自然保護委員会	「木の目 草の芽」第114号
	(公財)日本体育協会	「体協スポーツニュース・体協フェアプレイニュース」2015年1月26日号

ウ　指導員養成出前講座について
エ　平成27年度活動方針について
・Inspire the Youth, Respect the Culture
・主な行事：常任委員研修会（6・13～14、戸隠）、総会（9/12～13、福島）、自然保護指導員研修会（11月）、関東地区自然保護交流会（8月）、山岳団体自然環境連絡会、山と自然の聖地研究会
⑵ジュニア普及委員会
12月15日㈪　出席者6名
ア　11月常務理事会報告
イ　ジュニア普及情報交換会について
・2/14㈯、国立オリンピック記念青少年センター
・講師：小泉俊夫・金子一実（群馬）、原勇人（大分）、吉野・湯浅両氏（日本山岳遺産基金）、佐藤初雄（CONE自然体験活動推進協議会）
ウ　なすかし雪遊び隊2015について
・3/27～28、国立那須甲子青少年の家
・事前打ち合わせ（2/28）、チラシ原稿について
エ　平成27年度中高年安全登山指導者講習会について
オ　第55回（平成28年度）全日本登山体育大会・島根大会について
⑶遭難対策委員会
12月17日㈪　出席者6名
ア　積雪期レスキュー講習会の準備について（1/23～25、土合山の家）
イ　遭対常任委員雪崩研修会について（2/21～22、天神ロッジ）
ウ　道迷いシンポジウムについて（3/14、関西大学総合情報学部）
エ　UIAA登山委員会の日本開催について（4/10㈮～11㈯）
オ　指導・遭対合同研修会について（6/21～22、熱海）
カ　平成27年度事業計画について
⑷競技部合同委員会
12月18日㈭　出席者11名
ア　新春懇談会特別功労表彰候補者推薦について
・南砺市、小林幸一郎、野口啓代を推薦
イ　第64回日本スポーツ賞表彰式について
・1/8(木)、小林幸一郎(受賞者)、森下、北山が出席
ウ　2015年日本代表選手選考について
・ボルダー女子S代表：野口啓代、野中生萌
・ボルダー男子A代表：藤井快、堀創、杉本怜、楢崎智亜
・リード女子S代表：小林由佳
・リード女子A代表：野口啓代、大田理裟、尾上彩
・リード男子S代表：安間佐千
・リード男子A代表：松島暁人、是永敬一郎、島谷尚季
エ　国内ユース強化合宿について
・1/4～7、浜松市・スクエアクライミングセンター/浜松JAM、参加者15名
オ　五輪プロジェクト・チームの発足について
カ　平成27年度事業計画（案）と収支予算（案）について
キ　第10回ボルダリング・ジャパンカップについて
・2/21～22、埼玉県・深谷クライミングヴィレッジ
ク　日本ユース選手権について
・3/28～29、千葉・印西市松山下公園総合体育館
ケ　クライミング日本選手権2015について
・5/2～3、東京・昭島モリパーク
コ　登録選手規程改訂の検討について
サ　ブロック別研修会について
シ　公認スポーツ指導員資格に関する指導委員会提案について
ス　国体開催に関する協議事項について
・長崎国体の参加資格違反に関しては「長崎国体のみ出場禁止」処分の回答あり
・長崎国体成績誤記の処理について
ソ　平成27年度競技部委員総会について
・4/5㈰
タ　11月常務理事会報告
チ　第5回全国高等学校選抜クライミング選手権大会の進捗状況報告
⑸選手強化委員会
12月22日㈪　　出席者9名
ア　2015年ボルダリング代表選手について
・男子：2014年シーズンにWC大会の決勝に残った4名（A代表：堀創、杉本怜、藤井快、楢崎智亜）は、シーズンを通して優先権を与える。
・来年からA代表を2名までとして対応。
イ　2015年代表チームスタッフについて
・代表監督、スタッフについて今後の検討課題
・代表管理方法についてフェイスブックの活用は成功
ウ　代表選手の運営費用について
・スポンサーの獲得等
エ　2015年代表選手のユニフォームについて

5. その他の重要事項
（12月11日～1月7日）
【報　告】
⑴全国スポーツ指導者連絡会議
12月12日㈮　於：シダックスホール　瀧本常務理事
⑵全国「山の日」連絡会議
12月12日㈮　於：弘済会館
尾形専務理事
⑶日本ヒマラヤ協会華甲望年会
12月13日㈯　於：主婦会館プラザエフ　神崎会長
⑷指導常任委員研修会
12月13日㈯～14日㈰　於：神奈川県山岳スポーツセンター　瀧本常務理事ほか
⑸中国ブロック競技部研修会
12月13日㈯～14日㈰　於：鳥取
山本委員長、滝内常任委員
⑹山岳団体自然環境連絡会
12月19日㈮　於：労山事務所
石倉委員長、徳永・松隈副委員長
⑺第3回加盟団体連絡会議兼ドーピング防止研修会　12月19日㈮
於：新大阪丸ビル別館　西原委員長
⑻第5回全国高等学校選抜クライミング選手権大会
12月23日㈷～24日㈬　於：加須市民体育館　神崎会長、八木原副会長、尾形専務理事、森下・青木常務理事、西原、山本、北山各委員長
⑼2015年以降JOCマーケティングプログラムに関する競技団体説明会
12月25日㈭　於：岸記念体育会館理事・監事室　尾形専務理事
⑽仕事納め　12月26日㈮
⑾国内ユース強化合宿　1月4日㈰～7日㈬　於：静岡県浜松市　北山委員長、小日向副委員長、中川事務局員
⑿仕事始め　1月5日㈪
⒀第64回日本スポーツ賞表彰式
1月8日㈭　於：グランドプリンスホテル新高輪　森下常務理事、北山委員長
⒁国立登山研修所専門調査委員会
1月8日㈭　於：日本スポーツ振興センター本部会議室　尾形専務理事、北村・増山理事

編集後記

梅の開花の声が届いたが寒さは厳しい。今年は例年より積雪が多いようで雪崩の事故が心配される。雪の斜面に入る時は3種の神器（ビーコン、プローブ、スコップ）の携帯を

心得のない人は是非講習を覗いてみては如何でしょうか。安全登山を！

（広報担当　水島彰治）

登山月報　第551号
定　価　110円（送料別）
予約年間　1,300円（送料共）
昭和45年12月12日
第三種郵便物認可
（毎月1回15日発行）
発行日　平成27年2月15日
発行者　東京都渋谷区神南1-1-1
岸記念体育会館内
公益社団法人日本山岳協会
電　話　03－3481－2396
FAX　03－3481－2395

NPO法人 北丹沢山岳センター
事務局　〒252-0184　神奈川県相模原市緑区小渕1545-1
TEL 042-687-4011　FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp
蛭ケ岳山荘　TEL:090-2252-3203（衛星電話）
神の川ヒュッテ　TEL:042-787-2276
和田峠「峠の茶屋」　TEL:042-687-2882
理事長・代表　杉本憲昭

NPO法人 北丹沢山岳センター
事務局　〒252-0184　神奈川県相模原市緑区小渕1545-1
TEL 042-687-4011　FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp
◦ 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
◦ 陣馬山トレイルレース実行委員会
◦ 八重山トレイルレース実行委員会
◦ 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
大会々長　杉本憲昭

全国「山の日」フォーラム

みんなで山を考えよう

期　　日　3月28日（土）～29日（日）
会　　場　東京国際フォーラム
ホールＤ１、Ｄ５、地上広場、ロビーギャラリーなど (http://www.t-i-forum.co.jp)
主　　催　全国「山の日」フォーラム実行委員会
全国「山の日」協議会、警察庁、消防庁、文部科学省、林野庁、国土交通省観光庁、環境省、東京都（調整中）
特別協賛　日進食品ホールディングス株式会社、他

趣　　旨

日本は国土の７割近くを山地がしめる山の国です。日本人は古くから山に畏敬の念を抱き、森林の恵みに感謝し自然とともに生きてきました。山の恵みは清流を生み、田畑を潤し、川へ流れ、わが国を囲む海を豊にし、深く日常生活とかかわりあいながら豊かな心をも育んできました。わが国の文化は、山と海の文化の融合によって、その根幹が形成されたといわれます。

私たちは、国民の祝日「山の日」制定に努力し、2014年5月28日には国会の議決を経て、2016年8月11日から、祝日として施行することになり、その趣旨を「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」としました。

美しく豊かな自然を守り、次世代に引き継ぐことを銘記する日です。山が身体の健康やこころの健康に欠くことのできない国民の財産であることを再確認し、山との深いかかわりを考える日にしたいと思います。

「山の日」は決まりましたが、まだ国民全体への周知は行き届いておりません。私たちは、国、地方自治体、各種民間団体、学術団体、企業など、山に係る広範な人々の力をひとつにして、全国各地に向けて「山の日」を周知してまいりたいと願っております。

日本を代表する山岳である富士山は、信仰の対象及び芸術の源泉として世界的に大切な財産であると評価され、世界遺産に登録されました。その一方で、山はいま多くの課題をかかえています。地域の活性化、森林の荒廃抑止、良質な水源・資源等の確保、諸開発と環境保全、観光等地域振興と適正利用、動植物の保護と適正管理、登山者の山岳遭難事故や自然災害への対策、子どもたちの自然体験機会の創出、高齢者の健康増進、新たな雇用機会の創出など、将来を見据える「山」への展望が求められています。

「山の日」が、これからの課題解決へ向けての重要な契機となり、国民の誰もが「山を考える」、その成果として「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」ことができることを祈念し、みなさまの全国「山の日」フォーラムへのご参加とご賛助を、心よりお願い申し上げます。(全国「山の日」協議会　会長　谷垣禎一)

日　　程

――3月28日（土）――

○メインテーマ：「山の日」と「地方創生」

①「山の日」＝「地域活性化」を考えよう
基調講演：エコ・ツーリズムからの声（松田光輝）、ロングトレイルのすすめ（中村達）、外国人の増加と地域社会の対応（調整中）

②「山の日」＝「新しい森林の創生」を考えよう
基調講演：林業、古き新しきを探る（調整中）、森林セラピーのすすめ（今井通子）、水源としての森林から（調整中）

――3月29日（日）――

○メインテーマ：「山の日」と「山と自然と安全」

①「山の日」＝「安全のための地域整備」を考えよう
基調講演：山岳遭難救助の現場から（宮崎茂）、登山届の現状とこれから（調整中）、自然災害と山岳遭難の地域整備（調整中）

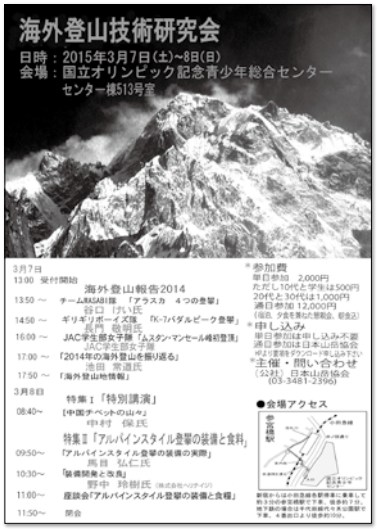
②「山の日」＝「安全のための知識と方法」を考えよう
基調講演：子どもたちの自然体験活動と安全対策（成城学園中学校校長）、登山者に必要な体力とトレーニング（山本正嘉）、山と自然の危険を考えよう（飯田肇）

その他、両日とも山岳映画や山小屋などの映像上映が行われる。

地上広場では、ステージやクライミング・ボードを設置して著名人のトークショーやクライミングのデモが行われる。

ロビーギャラリーには、アピールブースを設置して各地のイベントや登山・ハイキングに関する情報が提供される。

第53回海外登山技術研究会のご案内



日本山岳協会では、海外登山の振興、発展および安全を目的として、本研究会を開催いたします。

今年度も多くの日本人が海外の山岳に足跡を残してきました。ピオレドールアジアを受賞したチームWASABI隊をはじめ、その中の成果のあった登山隊のいくつかに、登山報告をしていただきます。また特別講演として、その探検の成果が海外からも高い評価を得ている中村保氏に、中国山岳の探検報告をしていただきます。

そして特集は「アルパインスタイル登攀の装備と食料」と題して、近年海外で活躍しているアルパインクライマーの方々から、装備や食料の選択の仕方や使い方、改造・改良案について、これまでの事例を紹介していただき、これからアルパインスタイル登攀を目指す方々の参考にできればと思っております。

今回は若い現役クライマーの方にぜひ参加していただきたく、単日参加費を考慮いたしました。一般参加の方を含め、関係各位お誘い合わせの上、ぜひご参加下さいますようご案内申し上げます。

期　日　2015年3月7日(土)～8日(日)

会　場　国立オリンピック記念青少年総合センター　センター棟513号室

費　用　通日宿泊参加12,000円(宿泊、夕食を兼ねた懇親会、朝食込み)
単日参加2000円／日(学生と10代の若者は500円、20代と30代は1000円)

申込み　通日宿泊参加の場合は2月23日(月)までに参加費を添えて事務局にお申込みください。
単日参加は申込み不要です。要項はHPに出ています。

問合せ　日本山岳協会事務局

〈内　容〉

◎3月7日(土)　13:00受付開始

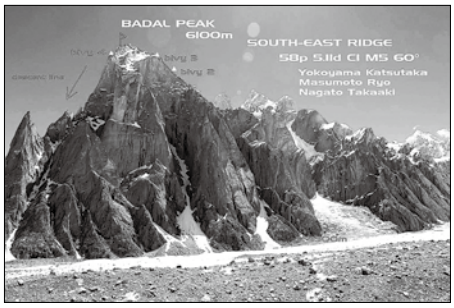
「海外登山報告2014」

13：50　「アラスカ　4つの登攀」チームWASABI隊　講師・谷口けい氏、和田淳二氏
14：50　「K7バダルピーク登攀報告」ギリギリボーイズ隊　講師・長門敬明氏
16：00　「ムスタン　マンセール峰初登頂報告」JAC学生部女子隊　講師・JAC学生部女子
17：00　「2014年の海外登山を振り返る」講師・池田常道氏
17：50　海外登山地情報(国際委員)
19：00　懇親会

◎3月8日(日)

「特別講演」

08：40　「中国チベットの山々」　中国最新事情　講師・中村保氏
09：50　「アルパインスタイル登攀の装備の実際」講師・馬目弘仁氏
10：30　「装備開発と改良」講師・野中玲樹氏
11：10　座談会「アルパインスタイル登攀の装備と食料」
11：50　閉　会



第10回 山岳スキー競技日本選手権大会 参加選手募集！

4月4日(土)、5日(日)の両日で、長野県小谷村の栂池高原から天狗原にかけての斜面を使用して、第10回山岳スキー競技日本選手権大会が開催されます。この競技は山スキーを使って登り下りのあるコースを周回してくるタイムレースで、スキーを使った冬の山岳耐久レースとも呼べるものです。およそ水平距離13㎞、総標高差1450mのコースを山スキーで登り、滑走します。国際規格部門の他に、ショートコース部門やテレマーク部門もありますので、レースが初めての方でも気軽に挑戦していただけます。ぜひ皆さまのご参加をお待ちしております。

詳しくは日本山岳協会HP　http://www.jma-sangaku.or.jp/、または山岳スキー競技協会HP　http://www.jsmc.jp/

山岳雑誌 岳人

山と人、
時代をつなぐ
「岳人（がくじん）」。

ひとたびページをめくると、先鋭的な現役クライマーから、散策を楽しむ登山愛好者、一線を退いた往年の登山家まで、“岳（やま）”を愛するすべての人々の想像力と冒険心をかきたてる、そんな存在でありたい。山の魅力や楽しさ、そこで生まれた文化を伝え、山と人との関係をより良いものにしたい、そんな思いを込め「岳人」をお届けします。

年間購読がおすすめです。

購読割引　送料無料　限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格1冊 680円（税込734円） → 年間購読12冊 7,480円（税込8,078円）

12冊 8,160円のところ ▶680円おトク！

年間購読特典

岳人オリジナルマグカップをプレゼント！

「岳人」3月号

【特集】言葉の山旅 山と詩人〈上高地編〉
【好評連載】夢枕 獏「『神々の山嶺』創作ノート」／フリチョフ・ナンセン「グリーンランド初横断」／石川直樹「まれびと」／秘境探訪 ほか

3月号 2/15発売

★モンベルのウェブサイト、全国のモンベルストアや書店にて発売中！

年間購読お申し込み方法

◉ウェブサイトで
http://www.gakujin.jp

◉お電話で（受付後に振込用紙をお送りします）
0120-982-682 ／ TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

◉全国のモンベルストアで
http://store.montbell.jp

立ちどまらない保険。
MS&AD
三井住友海上

安心を売る仕事。

嵐の日でも　晴れの日も。
つらいときも　うれしいときも。
わたしはあなたを見守っています。

わたしがあなたに
売っているのは「安心」です。

安心できれば挑戦できます。
だからあなたは
夢に向かって
進みつづけてください。

どんなことが起きても
わたしはあなたの味方です。

MS agency
www.ms-ins.com

私は
三井住友海上の
代理店です。

JMA
守ります。美しい日本の山。

山岳保険の加入は
登山者のマナーです。

あなたの山岳保険は、大丈夫ですか？

■平成25年山岳遭難の概況
（警察庁生活安全局地域課　平成26年6月12日）

発生件数 **2,172**件（前年対比 184件増）
遭難者数 **2,713**人（前年対比 248人増）
死者・行方不明者 **320**人（前年対比 36人増）

詳しくは ➡ http://www.sangakukyousai.com

お問い合わせは

日本山岳協会 山岳共済会
事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター
月～金　10：00 ～ 17：00（土・日・祝日除く）

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707
TEL：03-5958-3396　FAX：03-5958-3397
E-mail：sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp
ＵＲＬ：http://sangakukyousai.com